

2023年8月の選評に代えて 高橋修宏

人間が一番手軽な管楽器 (桜望子 山形県)  
鼻歌を聞きながら眠って

かつて音楽家の武満徹は、音楽の起源をめぐって「…人類が心臓のビートをこの肉体にもつ限り音楽はあった…」(樹の鏡、草原の鏡)と記している。なるほど、人間の肉体は〈心臓のビート〉を刻む、まさに人体楽器と呼べるもの。この作では子守唄ではなく「鼻歌」としたことで、どこか日常的でラフな感覚も生まれた。

一滴の海を耳より出す良夜 (長谷川柊香 宮城県)

耳より出すものが〈水〉ではなく、「海」と記しただけで、鮮やかなポエジーが生まれた。機知と呼べる言葉に対する感覚が、この作者の美質なのかもしれない。

「じゃあね」って言われたあとも (小島 涼我 東京都)  
切れなくて電話に夏の潮騒がする

誰も胸の内に秘めているような抒情的な作品。たとえ、このような体験をしていなくとも、目の前に「潮騒」の情景が浮かびあがるようだ。

百人の二百の足の千の爪 (立花ばとん 東京都)

この一句には、ことさら不可解なことは書かれていない。あたり前の事実が、ただ「百」、「二百」、「千」と数字によって表記されることで、作品に謎めいた気配が宿る。言葉に意識的な巧みな一句。

朝採れの見開き1ページの白紙 (松下 誠一 東京都)

「朝採れ」という措辞から、「白紙」へと至る意外性が魅力となっている一句。「朝採れ」と形容されることで、ただの「白紙」も妙に瑞々しく感じさせる。

原っぱを走る端から八月さ

(中矢 温 愛媛県)

ハ音の連なり、そして「端から」という措辞によって、「八月」が具象化した。ささやかな言葉の働きを生かした一句。「さ」の一字も効果的だ。

月明かりに照らされている

(たんころぶ 兵庫県)

アリの

もっている砂糖のきらめき

「月明かり」、「アリ」、「砂糖」という順に、大きな景から微細なモノへと焦点が絞られていく。見えがたい「きらめき」にまで、その視点を及ぼすことで作品として成立した。

国宝の日陰の広さ獺祭忌

(奎いう子 佐賀県)

ただ「国宝」と記されるだけだが、「日陰の広さ」によって巨大な伽藍などを想像させる。また、「獺祭忌」という正岡子規の忌日によって、法隆寺のイメージも浮かびあがる。巧みな言葉の配置だ。

壊れ切るまで

(香取小春 宮崎県)

公園で遊びたかった

おそらく、この主体となるのは、その「公園」の遊具。発話する主体が、人ではなくモノ自体となるだけで、不思議な感触をもたらすことを示した作品だ。

産みかけた  
桃  
のうぶげの感触が  
夢に出てきて、出てきて消えて

(真島しましま 千葉県)

きわめて微細な〈桃の産毛〉に対する、作者の感覚的な把握が印象的な作品。とりわけ、四行目の「夢に出てきて、出てきて消えて」の描写が、あえかな感触を、あえかなまま見事に捉えている。

ハンバーガー  
食べつつ思い出している  
棺の中の先生の顔

(篠遠 早紀 東京都)

もちろん〈食べる〉という行為は、自らの〈生〉をつなぐためのもの。それと〈死〉との対比が、鮮烈な印象をもたらす。ここでは「ハンバーガー」というカジュアルな食品が、どこか死者への想いを乾いたものになっているようだ。

羽ばたきを繰り返しては  
折り鶴に折目正しく穴は開いてく

(天野 若花 福岡県)

「折り鶴」は、ときに鎮魂や平和の象徴と言われる。だが、この作では、そんな意味やイメージを脱色し、〈モノ〉としての「折り鶴」を、ただ見つめている。「折目正しく穴は開いてく」とは、まさに非情なディテールへの眼差しか。

小鳥くる  
ハンバーガーショップのあかり

(有野 水都 東京都)

「小鳥くる」は、秋に渡って来る鳥をめぐる季語。だが、この一句では「ハンバーガーシ

ヨップのあかり」に来ると記す。乾いた人工的な光景と取り合わせることで、暴力的に変容しつづける季節感を切り取っているようだ。

記念碑にたかる蠅らの行進曲 (涼木 和貴 北海道)

俳人の三橋敏雄に〈戦争にたかる無数の蠅しづか〉というアイロニカルな一句があるが、この「蠅ら」も同じようなイメージを含意しているのだろう。だが、いま「行進曲」は始まってしまった。さらに危機が、深まっていく。

母が弾くピアノの音が一つずつ  
産声あげて天に昇った (かわなご まい 埼玉県)

「母」という存在に対する、作者の眼差しが美しい。とりわけ「産声あげて天に昇った」というフレーズは、どこか崇高とも呼べる気配がただよう。聖母のイメージさえ喚起させるようだ。

砂浜に逃げていくひとを  
眺めているのだけれど  
まだ逃げています (井口 可奈 東京都)

何から逃げているのか。どこまで逃げていくのか。その答えは謎のまま、ここでは〈逃げる〉という振るまいだけが現前化している。どこか不条理な映像のような作品。